

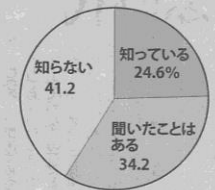
がん患者の妊娠 諦めないで



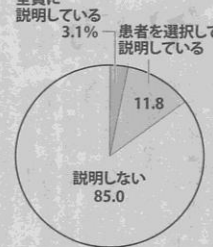
岡山大病院の産婦人科のフリーベネ。体外受精をした受精卵の凍結保存や、卵子凍結保存など、がん患者の生殖機能維持に関する説明資料も無料配布されている。

医療従事者の認識も不足

Q1・がん患者の生殖機能温存をできることを知っているか



Q2・がん患者に生殖機能温存について説明しているか



卵子など凍結保存 妊孕性を維持

がん患者の妊娠について教えてほしい。がん治療の進歩でがんを克服する人が増えています。それに伴い、治療後の生活の質（QOL）を向上させるために、卵子凍結保存などの生殖機能維持が注目されています。岡山大病院の中塚幹也教授は、がん患者の生殖機能維持について、卵子凍結保存や精子凍結保存などの方法を説明しています。

治療後も快適な生活を

所要期間は約20日、費用は30万円〜50万円です。卵巣の凍結保存は、手術後、卵巣を凍結して凍結保存し、手術後に凍結した卵子を解冻し、体外受精を行います。岡山大病院では、がん患者の生殖機能維持のために、卵子凍結保存や精子凍結保存などの方法を説明しています。

岡山大病院 中塚幹也教授に聞く



中塚幹也教授—岡山市北区鹿田町の岡山大

抗がん剤や放射線治療などでがん患者の生殖機能が低下し、妊娠できなくなるのを防ぐため、がん治療前に卵子や卵巣、精子などを凍結保存して生殖機能や妊孕性（妊娠できる可能性）を維持する技術がある。岡山大病院（岡山市北区鹿田町）で、がん患者の生殖医療などに取り組む同大医学部保健学部長、中塚幹也教授（57）に生殖医療について話を聞いた。

【聞き手・石川勝己】

選択肢として啓発必要



妊娠や出産などに関する基本的な説明資料も作製・無料配布されている

がん患者の生殖医療の課題は、がん治療と生殖機能維持の両方を確保することです。がん患者の生殖機能維持は、がん治療と生殖機能維持の両方を確保することです。がん患者の生殖機能維持は、がん治療と生殖機能維持の両方を確保することです。